



第49回日本美容外科学会総会・第157回学術集会

The 49th Annual Meeting of Japan Society of Aesthetic Plastic Surgery

イブニングセミナー 4

EVENING SEMINAR

次世代デバイスが拓く美容医療の新たな可能性 — Fractional IPL & スキャナー付きCO₂ Laserを臨床経験から検証する —

DATE & TIME

2026. **11.5** (木)
17:00 - 18:00

第3会場 **Ocean 北棟 3階**

琉球ホテル&リゾート 名城ビーチ



座長

みやた形成外科・皮ふクリニック

宮田 成章 先生

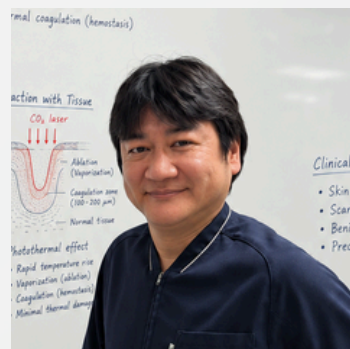


演者

皮フ科かわさきかおりクリニック

川崎 加織 先生

次世代フラクショナルIPL「SHINY」による
シミ・美肌治療の検討 —Cellテクノロジーが
もたらす高い治療効果と安全性の両立—



演者

和歌山アカデミアスキンクリニック／小幡医院

小幡 有史 先生

スキャナー付きフラクショナルCO₂レーザー
「Odyssey」の導入経緯と約1年間の使用経験
——CO₂REの代替機として成立するか

イブニングセミナー 4

ES4-1 次世代フラクショナルIPL「SHINY」によるシミ・美肌治療の検討
ーCellテクノロジーがもたらす高い治療効果と安全性の両立ー

川崎 加織 先生 皮膚科かわさきかおりクリニック

美容医療においてIPL治療は光老化改善の主軸であるが、治療効果の追求と熱傷リスクの低減をいかに両立させるかが課題である。本講演では、独自の照射理論により安全性と高い臨床効果を実現した最新フラクショナルIPLシステム「SHINY」の有用性を検討した。

SHINYの核心は、照射面を1.4mm四方の微細なセル140個に分割して格子状にエネルギーを届ける「Cellテクノロジー」にある。これにより、標的組織への十分な熱伝達と、セル間の「セーフティーゾーン」による低侵襲性を同時に実現している。標準搭載の7種類のフィルター（415nm～755nm）を用い、色素斑、毛細血管拡張、肌のハリ等の改善を目的とした多角的なアプローチが可能である。

臨床症例では、雀斑や赤ら顔の改善に加え、真皮層への熱刺激による皮膚の質感向上など、包括的なエイジングケア効果が確認された。特に415nmフィルターは表層のメラニンに高い反応性を示し、効率的な治療が可能であった。安全性に関しては、万が一の過剰照射時でも、エネルギーが分割されているため単一の大きな熱傷を避け、瘢痕を残さない微細な小水疱に留めることが示された。

SHINYは、優れた冷却機構とフラクショナル化により、ダウンタイムを抑えつつ最大限の効果を引き出すことが可能である。本装置は、美容医療において「高い臨床効果」と「偶発症リスクの最小化」を両立する極めて有用な選択肢である。

ES4-2 スキャナー付きフラクショナルCO2レーザー「Odyssey」の導入経緯と
約1年間の使用経験——CO2REの代替機として成立するか

小幡 有史 先生 和歌山アカデミアスキンクリニック／小幡医院

当院では10年以上にわたり、シネロン・キャンデラ社のスキャナー付きフラクショナルCO2レーザーCO2RE（コア）を日常診療の中核として使用してきた。その有用性は疑いようがなく、もはや「なくてはならない施術ツール」として定着していたが、導入から10年近くが経過した頃から機器の経年劣化が懸念され始め、さらにメーカーからは後継機の発売予定がないとの情報も入るようになった。いわば「出口のない依存」とも言える状況の中、2022年頃より代替機の探索を開始した。

学会展示ブースの巡回やインターネット調査を重ねたものの、コストパフォーマンスと性能を兼ね備えた有力候補はなかなか見つからず、模索の期間が1年以上続いた。転機となったのは、2024年の日本美容外科学会（東京・虎ノ門ヒルズ）の展示ブースで、韓国製スキャナー付きフラクショナルCO2レーザー「Odyssey」と出会ったことである。2025年6月に院内デモを実施し、その使用感と臨床的な手応えを確認した上で、同年10月に正式導入に至った。

本演題では、導入から約1年間にわたる実臨床での使用経験をもとに、CO2REとの操作性・照射特性・治療成績の違いを比較・考察する。エンドオブサービスを迎えたCO2REの代替機として、Odysseyは「必要十分」たり得るのか——演者自身の率直な評価をお伝えしたい。